

ひなみ大学

芸術

本当のところ、アートとは何なのか？


2025年4月3日～6月19日

人間は、必ずしも生存に必要な不可欠ではない行為をする存在です。芸術はその典型かもしれませんが、なくても、生き延びることは、おそらくできます。にもかかわらず、人類は太古の昔から芸術作品を生み出し続け、今に至っています。これはいったいなぜなのか、更には「そもそも芸術とは何なのか」「芸術作品を鑑賞するとは何をすることなのか」を、歴史的に重要な作品にできるだけ数多く触れつつ、検証します。

① 4/3 ポスト印象派	⑦ 5/15 コンセプチュアルアート
② 4/10 象徴主義	⑧ 5/22 水墨画
③ 4/17 キュビズム	⑨ 5/29 俳句・短歌
④ 4/24 ダダイズムとポップアート	⑩ 6/5 ミニマル・ミュージック
⑤ 5/1 抽象表現主義	⑪ 6/12 実験音楽
⑥ 5/8 ミニマリズム	⑫ 6/19 まとめ

◀ 2025年6月26日より「差別～本当のところ、差別と区別に違いはあるのか？」がスタートします。▶

【講座要項】

日 時	毎週木曜日 20:00 ～ 21:30 受講はオンラインのみ ※ 英語A、英語B、武道クラスの受講者は振替受講も可能です	受講はこちらから  ZOOMミーティングID: 719 1802 3488 パスワード: 018303 ※事前にアプリをインストールしてください。
受講料	12,100円(税込) 体験受講料 1,000円(税込) ※ 各テーマにつき1回、体験受講できます (塾生とその家族は無料)	
申込/問合せ	T E L / 090-8220-1010(担当ミウラ) M A I L / qt@hinami.org	

※ 裏面の受講者感想をぜひお読みください。

【受講者感想】

※ 所属及び学年は、感想をいただいた当時のものです。

中学生の頃から現在に至るまで、ひなみ大学を10年近く受講し続けていますが、自分の知的な成長に大きく役立った実感があります。このクラスは3か月ごとに学習テーマが変わり、宗教や哲学からポップカルチャーに至るまで様々なことを学んできましたが、中学時に受講を始めたことで、このクラスで取り扱った各テーマについての学びと同じかそれ以上に、学問そのものに向き合う姿勢や、学校での教科学習にとどまらずにそれを超えて勉強すること、すなわち学ぶ上で土台となるものが理屈抜きに身についたと感じています。京都大学に進学して地元を離れた今でもこのクラスにオンラインで参加していますが、ともすれば同じような性質の人が多く集まるいわゆる「大学」とは違って、ひなみ大学には様々なバックグラウンドを持つ人たちが会するので、社会とのつながりをより意識することが出来ます。もちろん個々のクラスも知的興奮を与えてくれるという点で面白く、それも現在受講している理由なのですが、それと同じくらい、社会の中で生きる様々な人たちとの会話を通して刺激を受けることが多く、このクラスを毎週楽しみにしています。

藤中一心（京都大学在学中）

ひなみ大学を受講して得たものは数え切れませんがあえて一つ選ぶならば「真に学問すること」の楽しさを知ったことです。自分は幼い頃から小、中、高校と受験を繰り返して来ており、学校のテストでいかに評価されるかということに捉われていました。しかし、ひなみ大学に通うことでそれがいかに狭く縛られた価値観だったかを思い知らされました。なぜなら、学校のテストというものはあくまで入試を突破するためのものさしに過ぎず、それ以上でも以下でもないからです。学問することは今の自分を俯瞰し、これからどう行動するかを見極めることだと信じています。決して点数化できるものではありません。そうして思考した経験は間違いなく僕の宝物になっています。ひなみ大学では年齢、職業問わず、あらゆる方が一同に会して勉強します。純粋に学問を楽しみたい方、今の自分を見つめ直したい方、特に学校の勉強に窮屈さを感じている方はぜひ受講することをお勧めします。

角凜人（高校3年生）

僕は、ひなみ大学を半年間続けて変わったことが2つあります。1つ目は、このクラスには「難しい」というイメージがありました。でも、おやびんが小学生の僕にも分かりやすく、たまに面白おかしく説明してくれます。学んだことを生かして自分たちで話し合う時間も、僕が話について行けていない時には、先輩たちが助けてくれるので、安心です。2つ目は、難しいと感じるときには、とりあえず聞いているだけでも頭に入ってくるのがあって、すごくよかったということです。完全には分からなくても、自分なりにがんばって聞いていると、なんとなくだけど理解ができます。聞いたことをおさらいすると、その日のお話が頭に入って覚えられます。ここで教わることは無駄じゃないと感じるし、ここで学んだことが生活や学校の勉強などの中で役に立った時は、とても嬉しいです。

峠晴文（小学6年生）